

平成 22 年度 第 1 回 倉吉市地域公共交通会議

日時：平成 23 年 2 月 8 日（火） 10：00～

会場：倉吉市役所 大会議室

1. 開会

（事務局：森室長）

みなさん、おはようございます。本日はお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。定刻より少し早いが、只今より第 1 回倉吉市地域公共交通会議を開催したい。本日の出席者は委員 19 名中 15 名出席で、過半数を満たしていることをご報告させていただきたい。本日は倉都会長が欠席であり、羽根田副会長に会議を進めていただきたい。

それでは羽根田副会長からあいさつをお願いしたい。

2. あいさつ

（羽根田副会長）

みなさま、おはようございます。本日はお忙しいところ、倉吉市地域公共交通会議に出席いただきましてありがとうございます。先程事務局よりあったが、本日倉都会長が不在なのでよろしくをお願いしたい。

前回の協議内容は、タクシーの特定地域指定に向けた取り組み、また中部地域の路線バスに関わる見直しの方向性についてであった。それら公共交通に関わる計画について策定が進められているので、本日はその内容について、報告、協議をしていただきたいと思う。これらの内容を確認いただいて、委員の皆様の意見を伺いたい。よろしくをお願いしたい。

（事務局：森室長）

ありがとうございました。ここからは副会長に進行をお願いしたい。

3. 議題

（羽根田副会長）

報告事項 1 「タクシー事業に関わる倉吉交通圏地域計画の策定について」事務局より説明をお願いしたい。

（事務局：大本）

※資料の確認後、資料に基づき説明

（羽根田副会長）

ありがとうございました。意見、質問があればお願いしたい。資料によると、タクシーのニーズが多様化しているようであり、タクシー需要の低迷などが問題化しているようだが、タクシー

事業に関して何かご意見があればお願いしたい。

(竹森委員)

資料1の計画内容のところだが、「高齢化社会」ではなく「高齢社会」という表現が適切ではないか。(参考：一般的に高齢化率7～14%の場合「高齢化社会」、高齢化率14～21%の場合「高齢社会」、高齢化率21%以上の場合「超高齢社会」と称する)

最近の大雪の中、3日ほどタクシー通勤した。高齢者の方が買い物にタクシーを利用しているのを見ると、タクシーは高齢者の足となる重要な交通手段だと思う。

タクシー乗務員との話の中で、観光案内するには知識が必要なので、三徳山の講習会を2回受けたと話をしていた。観光協会がタクシー乗務員と一緒に研修を行っているかどうか聞いたところ、あまりそのようなことはないので、自主的に勉強しているということであった。

また、三朝町の観光協会にもタクシー乗務員を対象とした観光についての研修があるかどうか聞いたが、公的にはないということであった。タクシーが倉吉の足になるだけでなく、目の力にもなってほしいと思う。

(事務局：大本)

タクシーの協議会の中でも、高齢社会での公共交通としてタクシーが位置づけられており、タクシー事業者もそのような方向で事業を進めると言っていた。また今日、協議していただく計画の中にも観光タクシーの導入等の計画が載っているので見ていただきたい。

(羽根田副会長)

その他、ご意見は。小山委員からタクシー事業に関わる問題点があればお願いしたい。

(小山委員)

日ノ丸ハイヤーの小山と申します。鳥取県中部については、昨年4月1日から特定特別監視地域指定をしていただいた。規制緩和の中でこのような指定をされなければ、外部参入が容易に出来る。中部地域は需要と供給のバランスが崩れており、労働者の賃金関係等、普通の産業と違い落ち込みが厳しいため、規制をしていただかないとやっていけない部分がある。我々の姿勢を正すという意味からもサービスの充実には努めなくてはならないが、指定を受けて外部から参入できないような環境にしなければ我々の産業は成り立っていかないということで、地域指定となった。

今後は、お客様に喜んでいただけるタクシーづくりをしていかなければならないと考えている。バスと違ってタクシーはドア・トゥ・ドアであり、お客様と直に触れ合える職業である。そのため、好評をいただく時もあるが厳しく叱咤される事もあり、同じ公共交通機関の中でもバスとの違いがある。いずれにしても、タクシー業界は厳しい状況が続いている。

(羽根田副会長)

ありがとうございました。問題、課題等がある様だが、地域や利用者がどのように関わる事ができるのか、取り組みについてご意見があればお願いしたい。

(穂久委員)

利用促進等については、後ほどの協議事項に関わることではないかと思うが。

(事務局：大本)

今はタクシーについての協議であり、最後の協議事項の中でも重なる部分がある。今のところご意見がなければ、最後にまとめてでも結構である。

(羽根田副会長)

報告事項1「タクシー事業に関わる倉吉交通圏地域計画の策定について」は、以上でよいか。それでは続いて報告事項2「平成23年度地域公共交通確保維持改善事業」について事務局より説明をお願いしたい。

(事務局：大本)

※資料2「平成23年度地域公共交通確保維持改善事業」について資料に基づき説明。

(羽根田副会長)

何かご意見、ご質問があればお願いしたい。(なし)

(事務局：大本)

国の補助制度が大きく変わることで、主に自治体とバス事業者に影響する問題であるが、路線の補助要件が変わるということをご承知いただければと思い、説明させていただいた。

(羽根田副会長)

それでは特にないようなので、報告事項2については以上で終わりたい。続いて「鳥取県中部地域公共交通総合連携計画案について」事務局より説明をお願いしたい。

(事務局：大本)

※資料3に基づき説明(第1章部分の説明)

(羽根田副会長)

何かご質問、ご意見はないか。

(穂久委員)

住民アンケートの回収率が低いように感じるが、その低さはどこに原因があると認識しているのか。

(事務局：大本)

公共交通に関心の高い地域については回収率が30%を超えるが、自家用車に頼っている地域は公共交通に関心がなく回収率が下がるのではないかと考えている。

(穂久委員)

本日は倉吉市自治公民館連合会として出席しているが、成徳地区振興協議会として話をさせていただければ、成徳地区では今回、明治町がアンケートの対象となっていたようである。このようなアンケート調査は国の予算が付くので実施されていると思うが、市として公共交通への関心の有無は様々な機会に情報をつかんでいると思われるので、住民のアンケート回収率が低いのは残念であった。

(事務局：森室長)

もうひとつ、バスの利用状況を知りたかったので、アンケートの回答対象を「バスをよく利用する方」にお願いをしたため、自家用車を主な移動手段としている人には回答してもらえず、その辺で回収率が低くなったのではないかと思う。

(竹森委員)

P32の「1-4上位計画」で、倉吉市の「第10次倉吉総合計画」が挙げられており、特に踏まえるべき項目として「生活バス路線の維持・確保」がある。P9の「図16 各バス路線の区間運行回数」をみると、倉吉の中心部の運行便数が多いのがわかる。全体的に見ていくと、「生活バス路線の維持・確保」ではなく、「バス路線の改善」として、市民がまんべんなく利用できる方法を考えていただく項目がここに載るべきではないか。

(事務局：大本)

ご指摘のように倉吉～西倉吉間のバス路線が過密な状態になっている。この辺りを整理しながら、全体をネットワーク化していくということで、第3章以降を見ていただければと思う。

(羽根田副会長)

その他に意見があればお願いしたい。(なし) それでは第2章の説明をお願いしたい。

(事務局：大本)

※資料に基づき第2章を説明

(羽根田副会長)

第2章について、意見等があればお願いしたい。

(穂久委員)

バスのICカードの導入が書いてあるが、これはつり銭の受け渡し等をスムーズにするための対応だと理解している。個人的には降車の際に支払いに手間取ってもあまり気にならないが、現状でバスの運行に支障が出るような実態があるのか。バス事業者の方にお聞きしたい。

(山下委員)

私どもは、ICカードの導入により、バス会社が違っても相互に利用できるということで事

業に取り入れられていると認識している。

(穂久委員)

それはそれとして、現在、降車時に料金の精算が滞るという実態はあるのか。

(山根委員)

両替すると他のお客さんを待たせるということで、乗る方が気を使われている。

(竹森委員)

運転手さんからは、危険なのでバスが止まってから支払うよう注意されるが、それはいいことだと思う。

(山根委員)

ICカードはいいと思う。降車がスムーズになる。

(事務局：大本)

ICカードについては、鳥取市が1年前から導入に向けて進めている。東部の方で導入が進めば、県内全体に波及しやすくなると考え、ICカードの導入を計画に入れた。

(山根委員)

P38の「(2) 乗り継ぎ抵抗への配慮」の図51の④と5について。「⑤待合環境の整備」とあるが、今回の大雪で待合環境整備が出来ていないことがわかった。現在できない待合環境の整備が、将来的に本当に出来るのかどうか疑問である。

また、「④低床車両の導入」とあるが、低床車両は今回のような大雪の時に弱く、まともな運行が出来るのかも考えてほしい。

(事務局：大本)

「⑤待合環境の整備」で、バスの上屋の設置はしてあるが、バス停の除雪が遅れていることや、上屋の所有者が不明確なこと、ベンチが壊れたまま設置してある点等、その辺も含めて今回の計画に載せて、バス停の上屋の台帳みたいなものを作り管理しようと考えている。

また、「④低床車両の導入」については、除雪の関係はバス路線を優先して行ってもらおうよう要請しているが、一度に多く降ると対応できない面がある。これについては、再度、市の公共交通の担当から建設部に要請したい。

(山下委員)

今、低床バスの話が出たので、少しお話をさせていただきたい。低床バスは高齢者にとってはステップが低く乗降が楽だが、大雪の時は低床であるために走れないという状況がある。国には低床バスの標準仕様があるが、雪が降らない太平洋側を基準とした仕様になっている。個人的には標準仕様に太平洋側と日本海側と2つのタイプがあってもいいのではないかと思う。

今年の大雪では乗務員が大変な思いをしている。山間地の積雪では低床バスが運行が出来ないので、逆に旧タイプのほうが動きやすいということもある。

(羽根田副会長)

他にあればお願いしたい。(なし)では計画の基本方針はよいということで、続いて第3章の説明を事務局よりお願いしたい。

(事務局：大本)

※資料に基づき第3章を説明。

(羽根田副会長)

第3章についてご質問、ご意見があればお願いしたい。

(山内委員)

住民アンケートの中で「バス料金が高い」とあるが、P53のところでは乗継ぎの料金の見直しも出ている。この場合のバス料金とは、単体のバス料金なのか、乗継ぎ料金のことなのか。

(事務局：大本)

単体のバス料金が高いという意見がある。

(山内委員)

そうであれば、単体の料金の見直しが必要なのではないか。利用者に「バス料金が高い」という意識があれば、それに対応する方が効果的だと考えられる。

また、「総合的なサービス内容」の満足度が低い、それへの対応としてここに掲載されている事業で充分だと判断しているのか。

(事務局：大本)

事業の内容を「乗換え割引制度等の検討」としているが、料金体系全体について見直しの検討をしていきたいと考えており、そのことがわかるような文言表現にしたい。

(山内委員)

料金全体の見直しは可能か。

(事務局：大本)

現在でも、バス事業者に上限料金を導入していただいている。料金体系については現時点で明確に下げるとは言えない。「検討をしていく」という表現はできるが…。

(山内委員)

利用者が増えないと料金を下げることは難しいと思う。色々な方策を講じて利用者を増やし、

その上で料金を下げるという方向と考えてよいか。

(事務局：大本)

定期券等については、保護者の方も月1万円程度は何とか負担できるという意見があり、それを踏まえてバス事業者の定期券割引制度を考えていく必要がある。

また、満足度調査で明らかになった不満への対応が、現在の計画で全て解決するかというご質問だが、そういう部分もあるが、運行本数等、実態を考えると単純に対応できないものもある。アンケート調査結果を踏まえて、その対応策を全て計画に反映させることは難しい。例えば、「最終便の時間等」の満足度が低いからといって遅い時間のダイヤを増やしても、実際の回答と利用がかけ離れることが予想される。そういった部分については、計画の中に反映されていない。その辺りを鳥取県中部地域公共交通協議会で協議しながら、計画として挙げているところである。

(山内委員)

わかりました。

(伊藤委員)

P52の「ICカードの導入」については設備投資にお金がかかり、鳥取県中部地域で実施して費用対効果はあるのか疑問である。日本交通と日ノ丸自動車の車両数を合わせると、倉吉営業所だけでも50台以上ある。この辺りをバス事業者とよく協議をしないと、絵に描いた餅になりかねないと思う。確かにあれば便利だとは思いますが…。

また、P50のバス停の上屋だが、バス協会が設置したものもある。県道沿いは鳥取県で設置したものもあり、国道沿いでは国道事務所や地元住民が設置したものもある。

もう一点、P56の観光タクシーで乗務員の教育とあるが、鳥取市では商工会議所と鳥取市と鳥取市観光協会で観光大学を作っている。これはタクシーだけではなくて、県外からの観光客に対応するため、ホテルやお店、バス、タクシーも含め対象としてやっている。1月～3月まで長い期間で、鳥取市の伝統や文化、食材等、色々な方面の教育をしており、タクシー乗務員の知識の蓄積もできている。タクシー乗務員で観光大学の卒業生は鳥取市で50人はいる。しかし、残念ながら実際に現場で使うことがほとんどない。その様なスキルを持った乗務員が多いことを、関西方面や山陽方面にどのようにPRしていくのが重要で、その点も考慮していく必要がある。

(事務局：大本)

観光タクシーについては、観光協会や1市4町の観光部門と連携していきたい。観光タクシーを運行することになれば、観光協会のHP等でも周知していく必要があると考えている。

P52のICカードについては、おっしゃるように1市4町で11万人の人口があるが、バス利用者の規模もあると思うので、導入に向けては慎重に進めていきたい。

また、P50の「バス停環境の整備」については、バス停の所有が不明なものもある。

(事務局：森室長)

これについては、1市4町の定住自立圏の取り組みで公共交通も進めるが、1市4町の幹事会

の中で、できることからやっっていこうということで、上屋の調査について平成 23 年度の予算要求をしており、予算が付けばこれに取り掛かりたい。

(羽根田副会長)

その他はないか。

(伊藤委員)

P51 に例として掲載されている鳥取市のバスマップはいいものである。バス協会がH20年頃に中部地域の駅から観光地をバスで結ぶ「ぐるっとバスナビ」というマップを作った。駅からの路線は大体掲載されている。当時、倉吉市、湯梨浜町、北栄町、琴浦町で検討したものである。

(事務局：大本)

そのバスマップを参考にし、検討の材料にさせていただきたい。

(羽根田副会長)

その他はないか。

(衣笠委員)

倉吉市身体障害者福祉協会の衣笠です。先ほど山下委員から話が出たが、低床バスは協会の会員や高齢者においても利用価値が高い。しかし、今回の大雪で低床バスで不具合な状況も起きているようであるが、今後は豪雪にも対応できる低床バスの導入をお願いしたい。

(山下委員)

バス車両にはステップを下げる機能のものもある。決して低床バスを否定しているわけではない。今年の雪でずいぶん苦労したという話の延長で話をさせていただいた。ワンステップバスとノンステップバスと低床バスにも2通りある。レバーで車高を下げたりする事もできるが、豪雪地域における標準仕様の低床バスがあってもいいと思う。個人的には低床バスの運行が理想であり、そうあるべきだと考えている。

(羽根田副会長)

その他、協議事項はないか。(なし)地域のニーズ、より実情に即した公共交通について協議する本委員会であるので、今後も地域としてどのような支援ができるのか協議していきたい。

では続いて、本日の協議内容や日頃公共交通について感じていることなど、総合的に何かあればご意見をいただきたい。

(山根委員)

最近、路線バスで走っていて感じるが、ロータリー～倉吉駅間の4車線のうちの1車線を時間帯を決めてバス優先にしてもらえるとありがたい。また、河原町～宮川町間についてもバス優先の時間帯を考えてもらえないか。

(竹森委員)

アンケート調査結果で70%がバス料金が高いとあるが、個人的には決して高くないと思う。これは市民の教育の分野にも関わる事だと思う。バスはとても便利でありがたい。

最近、高齢者の免許返納者へのタクシーの割引制度があるが、あれは県でやっているのか、市でやっているのか。

(小山委員)

バス事業者がやっており、割引部分は事業者が負担している。

(竹森委員)

倉吉市ではその制度が出来てから何年経つのか。

(小山委員)

この1月からである。

(竹森委員)

それもいい制度だが、田舎に住んでいるとどこへ行くにもタクシーに頼るようになる。あまり頼りすぎると、自分の足を使わなくなるのではないかと危惧している。

(小山委員)

タクシーの利用者が少なくなっている。色々なサービスを取り入れて、免許返納者に1割負担のサービスをしているが、お客さんは簡単に増えない。料金もここ十数年上がっていない。企業努力はしているが、右肩下がりの状況である。事業者のサービスにも限界が来ている。

(衣笠委員)

サービスはしていただいていると思う。タクシーだけがドア・トゥ・ドアで輸送してくれ、高齢世帯の多くは通院・買物等にタクシーを利用している。料金がどこまでなら高く、どこまでが安いかは簡単に言えないが、タクシーが必要となれば高いとか安いとかの問題ではなくなってくる。タクシーは必要な乗り物だと思うので、利用者が少なくなっても維持していただきたい。

(事務局：森室長)

先程のバス優先レーンのお願いについては、どちらへ相談すればいいのか。

(竹内委員)

相談先は警察になると思うが、現実にはなかなか難しい。鳥取市についても短い区間しか優先レーンにしていないし、倉吉駅は道路が狭いので、優先レーンを設定すると相当大きな渋滞が発生すると思われ、基本的に難しい。

(事務局：森室長)

バス停のところだけをバス優先にすることはできないか。

(竹内委員)

それはできない。

(羽根田副会長)

他にありますか。(なし) ありがとうございます。本日は鳥取県中部地域公共交通総合連携計画案についてご協力をいただいた。地域における公共交通のおかれた状況が厳しさを増しつつあることを踏まえ、地域公共交通の再生・活性化に向けて今後も取り組んでいきたい。今後とも倉吉市の民意に即した利便性の高い公共交通ネットワークの確立に向けて、委員の皆様のご意見、ご協力をお願いしたい。

それでは本日の日程を終了したので、事務局にお返ししたい。

(事務局：森室長)

今回は、ダイヤ改正や公共交通総合連携計画の取り組みの状況をみて開催したい。よろしくお願ひしたい。

本日の日程は全て終了したので閉会したい。ありがとうございます。

4. 閉会